

<| message で証ししよう > I ヨハネ 1 : 1 ~ 4

証し・・・証明、証言など

「証明」 ある事柄が真理だ、事実だということを明らかにすること

「証言」 ある事柄の証明となるように、体験した事実を話すこと

イエス様の十字架刑を、傍にいて一部始終を目撃していたローマ兵は、
「この方は、まことに神の子であった。」 マルコ 15 : 39 と告白した。

「証し」とは

- ①何があったか、神が私たちの身の上になしてくださった御業を他の人々に語ること
- ②自分が体験した、そこで起こった事実をそのまま話すこと
一人の人の存在は小さいけれど、一人の人証しが、大きな力(影響力)を持つ。
なぜなら、神について証しするから。

初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見えたもの、じっと見、また手でさわったもの、
すなわち、いのちのことばについて【1節】

ことばは、手でさわることはいできない。

「いのちのことば」とは ?

- 【ヨハネ】
- ・ 12 弟子の一人。弟子の中で一番長生きをした。
 - ・ ヨハネの福音書、ヨハネの黙示録を書いた。
 - ・ 福音が爆発的に広がる様を見て、激しい迫害下で殉教する仲間達を見た。
 - ・ 誕生したばかりの教会を混乱させる、偽りの教えと闘った。

あなたがたは世にあっては艱難があります。しかし勇敢でありなさい。
わたしはすでに世に勝ったのです。 ヨハネ 16 : 33

「世に勝った」とはいったい何のことをいっているのか？

迫害、仲間の死、偽りの教え。艱難を通して、ヨハネは何度も繰り返し
イエス様が言われる「勝利」を握り直す道のりだった。

私たちはどうだろうか・・・？

イエス様の勝利が自分ためであった事実が、遠い過去の事になっていないだろうか？

このいのちが現れ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠のいのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現された永遠のいのちです。

私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。

【2、3節】

伝道・・・聖書について教えることだけ？

聖書の教えである、みことばに生きる自分自身のことを「message」で証しすること。

- 「救いの証し」
- ① イエス様に会う前の自分
 - ② どのように出会い、又信じたか
 - ③ 信じた後、自分の内に起きた新しい変化

3つのポイントで話す 1分×3 = 3分で証し

5分×3 = 15分で証し

<messageでの証ししよう>

- ・福音を知らない人への証し・・・まず、神さまがどのような方を知ってもらう。そして、福音を聞くことのできる土壌を耕す。
- ・クリスチャン仲間への証し・・・分かち合うことを通して、神の幅広さを教えられ励まされ、互いのための祈り合って絆を深める。

約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。 ヘブル人 10:23～25